



推薦入試のピーク！

～半数の生徒が臨みます～

総合型選抜の受験も大半が終わりました。今年は、本校の3年生の30名程が挑戦し、結果を待っている状況です。そのような中ではありますが、いよいよ学校推薦型選抜の出願が始まる時期になってきました。公募制と指定校制の併せて90人程が本番を迎えます。原則として大学・短期大学の推薦入試による出願は10月下旬～になっており、試験自体は11月の半ば～12月初めになるところが多いようです。希望者される皆さん、各々の学校の情報を収集し、対策をスタートしていますか？今回は、多くの大学が採用している ①志望理由書 ②小論文 ③面接 の3点について解説したいと思います。対策は時間のかかるものばかりです。‘今すぐ’行動に移しましょう。また、1・2年生にとっても、どのような取組が必要であるかを知っておくことは大切ですので、よく読んでおいてください。

①志望理由書（志願理由書）～一番時間と手間を要するもの！早く取りかかろう～

■本学部を志望する理由

①自分が研究したいこと ②学部のカリキュラムを見て惹かれたこと ③他の大学・学部との比較検討で選択した理由 ④将来の進路実現の為に最も適している点 等を織り交ぜて、テンポよく明確に書くこと。

■これまでに熱心に取組んだこと

実績だけでは意味がありません。『そのために払った努力・成功の決め手』や『目標を達成して得たもの』など前後のプロセスもしっかりアピールするように！また『成果には反映されなかった取組』であっても、どれだけ懸命に取り組んだかを記し、『反省・改善点・失敗から学んだこと』などアピールしても良いです。部活動や生徒会活動での取組の他、資格・検定、学校以外の活動についても十分に価値があります。

■入学後の抱負と将来の展望

将来の目標が明確な人、大学・学部についてよく調べている人が圧倒的に有利な項目です。志望校のカリキュラムを調べ、授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法、各週のテーマと内容を見て興味のある科目を見つけ、入学後にどんな科目を選択して何を学び、どんな将来に繋げたいのか**具体的・計画的**に書けば大きなアピールになります。

②小論文 ～『型』を覚え訓練すれば誰でも書けるが、問題は中身～

■希望する大学・学部の過去問を調べよう

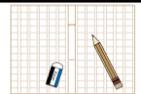
多くの大学では設問が変わっても出題形式は毎年あまり変わりません。試験時間、解答字数、答案用紙（縦書き／横書き、枚数）と設問の傾向も把握しておくこと。

■書くための材料を仕入れる

これから短時間で小論文を書くための材料—希望する学部に関連する知識をできるだけ多く蓄積しなければなりません。今から毎日、**関連する書籍やニュース**などを読み、**キーワード**を書き留めることを日課にしてください。次の4つが主な情報収集源になるかと思います。①ブックレット ②新書 ③ツイッター ④新聞

■小論文には『型』がある

小論文には、特によく使われる『型』は2つあります。反論容認型（自分の意見とは反対の立場からどんな意見が出てくるかを予測し、まずその反論を認めた上で、自分の立場から意見を主張する書き方）と重点先行型（序論の部分で「結論」または「論述の枠組み」を示しておき、本論で箇条書きふう項目を立てて論証をしていく方法）です。



解答字数	序論（導入）	本論（展開）	結論（結末）
内容	自分の『論点』と『意見』を提示する	自分の意見を裏付ける『理由』『根拠』を述べる	本論を踏まえ、改めて①の自分の意見を明言しまとめる
600字	60～100字（1段落）	400～500字（2～3段落）	60～100字（1段落）
800字	80～160字（1～2段落）	500～600字（2～4段落）	80～160字（1～2段落）
1200字	100～200字（1～2段落）	800～1000字（5～6段落）	100～200字（1～2段落）

■小論文を書く訓練

- ①小論文がどういうものか全くわからない場合は、まずは小論文の実例をいくつか探し、読んだり書き写してみる。良い小論文を書く為には、良い事例をたくさん読み込むことも大切です。
- ②原稿用紙1～2枚程度（600～800字）の小論文を、30分～1時間で書く練習をしてみる。
- ③希望する学部に関連知識を蓄積し、小論文の指導を受けてみる。



③面接 ～『熱意』や『個性』をアピールする場～

■基本的な注意点

- ①清潔で乱れない『身なり』…第一印象を左右します。先生などにチェックしてもらうこと。
- ②正しく丁寧な『言葉遣い』…正しい敬語は練習が必要です。また学生特有の言葉遣いは避ける。
- ③簡潔で『端的な返答』…ただだらだら、ととりとめない話は、分かりづらく、ミスに繋がることもあります。
- ④マニュアルの暗記ではない『自分の言葉』…事前準備した想定返答の暗記だけではアピールになりません。
- ⑤理論破綻のない『一貫した意見』…特に『志望理由書』との整合性は保って返答しましょう。



■個人面接(一般質問)の場合

最も標準的な面接形式で、受験生1人に対し面接者1～4人による対話型面接です。

- ①1人で面接者と向き合う形式で、緊張しがち。②質問をよく聞き、落ち着いてゆっくり回答する。
- ③話すときは質問者の顔を見る。④質問者以外にも聞こえるように大きな声でゆっくり話す。
- ⑤深く突っ込んで質問されても、慌てず丁寧に答える。



■集団面接(討論)の場合

面接者2～4人の前で、5～10人で与えられたテーマについてグループ討論をし、コミュニケーション能力を見る面接方式です。グループ全体が話し合いの方向性を見誤ると全員不合格の場合もあります。

- ①異なる意見を受け止め、共通点を見だし、議論の方向性を定めて行けるかを判定される。
- ②自分の立場を明確にして討論に参加すること。「どちらとも言えない」は討論にならない。
- ③この討論は『勝ち負け』ではない。論破にこだわらないこと。



●3年間の学びのポートフォリオ～活動実績報告書に注意～●

最近の推薦選抜や総合型選抜で活動報告書の提出が増えてきています。志望理由書の中に組み込ま

れたものもありますし、単独で活動報告書となっている学校もあります。その内容は、①3年間でどのような学習をしてきたか（総合的な探究の時間の学習内容・課題研究は何をやったか？）②部活動への取り組み状況と実績。③どのような資格・検定を取得したか？ ④ボランティア活動の有無・学校外での各種の催しへの参加状況等になります。受験の選択肢を広げる意味でも、1・2年生の皆さんには次の3つを是非実施してもらいたいと思います。

<その1> 英語技能検定は準2級合格はほぼ必須（含むGTECスコア）更に2級の合格も欲しい。

<その2> 長期休業中に青少年ボランティア活動に参加する（校内で実施したものは評価外）。

<その3> 総合的な探究の時間における取組をしっかり記録しておく（特に課題研究等の探究活動）。

以上の3つを今から心掛けて取り組んでみましょう。勉強と部活動だけでは、十分ではないと言われる時代になりました。いろいろなことに参加・挑戦すること、そして結果を残すことが求められています。

